

この部屋から、旅に出よう。

23' 特別号

Platform

フォトグラメトリ

現実と仮想の
交差点



station

- 私設図書館シャツツキステ
- CAVE OKINAWA
- Kawagoe KoEdo
- GunkanjimaVerse

Platform → contents

23' 特別号

Gravure1: 私設図書館シャツツキステ

4

Gravure2: CAVE OKINAWA

8

Kawagoe KoEdo

12

GunkanjimaVerse

16

あとがき

22

23' 特別号のテーマは「フォトグラメトリ」。

リアルの写真をVR内で利用し、VRのワールドをつくるものです。
まさしくリアルとバーチャルの交差点ということができるシステムなので、『Platform』のテーマとも噛み合うため、1周年記念特別号のテーマにしました。

リアルとバーチャルがわからなくなる境界線へようこそ。

編集長

<To the next PLATFORM.



世界には、色々な町がある。
その町ひとつひとつに、駅がある。

どの町も駅もそれぞれ違っていて、
違った人たちがいて、
そこを訪れた僕たちが抱く思いも、
きっと違うのだろう。
……VRでも、Real Worldでも。

今はまだ離れ離れの「現実」と「仮想」を、
一つに繋ぐ線路でありたい。

——それが「Platform」

そして現実と仮想の交差点が

フォトグラメトリ

World : Virtual Schatz-kiste 私設図書館シャツツキステ

Created by : みかん電機 /Tangerine



ここは仮想世界の

写真／みくにき

蘇る宝箱の 記憶



秋葉原の文化を支えたメイドカフェ
「私設図書館シャツツキステ」は
2020年11月15日を最後に閉館。
その姿を仮想に留めるのが
「Virtual Schatz-kiste」である。

仮想が生み出す

写真／みくにき

美しい
自然

沖縄県うるま市にある
本島中部最大級の鍾乳洞を
フォトグラメトリで立体化。
自然で生み出す神秘的な鍾乳石と
ライトアップされた幻想的な空間は必見。



この奥は

蒼く
光る
洞窟

World : CAVE OKINAWA
Created by : Tokoyoshi



旧八十五銀行本店。明治期に埼玉県で初めて設立された、唯一の国立銀行。埼玉りそな銀行の前身。



時の鐘の下をくぐると薬師神社。病気平癒のご利益がある。隣には稲荷神社がまつられている。



雷塚稻荷神社。商売繁盛のご利益がある。町内だけでなく、近隣の人々の信仰にも支えられてきた。



江戸の情緒を今に残し、
レトロあふれる街並みで
VRで旅にでかけよう。

写真／みくにき

たしかその日は、古き良き和を存分に楽しもうと、奮発して餽飪御膳を食べたと思う。写真を撮影したはずだが、スマホを機種変更した際に不手際があったのか、残念ながら手元に写真が残っていない。

おやつ欲しさに散策したが、思いの外腹一杯だったので何も食べずに小江戸を去った。数年後、VR Chatで小江戸が再現されると聞いたとき、当時の懐かしさが一挙に込みあげてきた。



川越 小江戸

Kawagoe Ko Edo

著者は一時期、埼玉県川越市で暮らしていた時がある。地方出身の私にしてみれば、川越駅周辺を歩き回るだけで、真新しく都会的なモノばかり視界に映るから楽しかった。多くの学生、サラリーマンと擦れ違いながら、流行りのカフェやオシャレな店を吟味する。「今日はどこで昼食をしようか?」そう考えながら北へ歩き続けた。

突如、周囲に蔵造りが——江戸の時代劇で見るような二階家が、多数現れた。そこは川越小江戸。徳川将軍家と関わりが深く、農産物や特産品の集散地として機能し、江戸の町さながらに蔵に黒い漆喰が塗られたことから、小江戸と親しまれた。

あの日、私はそこで昼食を食べ、

**バーチャルで
よみがえる
川越小江戸**

Kagagoe Ko Edo

Created
by 龍 lilea

ACCESS
in VRChat



川越小江戸のシンボル・時の鐘。バーチャルで川越の観光名所を渡り歩いてみると面白い発見が見つかるかも。



川越小江戸ではフォトグラメトリで撮った食べ物がある。食べ物を持って食べ歩きを楽しむ。



このワールドには扇子や和傘の小物アイテムがあり、それを持たせて写真撮影を楽しめる。

暫く歩き回って末に悟った。私が御膳を食べたのは産業観光館の内部であり、それは惜しくもVR上では再現されいなかった。しかし、産業観光館の情景を思い出せただけでも、僥倖だったと言うべきか。そういえば当時、何らかのアニメの聖地であるとパネル展示があった。これも写真が手元にないが、調べたところ恐らく「神様はじめました」だと思う。

尚も私はVR小江戸を歩き回る。再開の喜びを幾分か享受すると共に、それ以上もの哀愁を味わっている。私の場合は、一時の現代からの忘却、細やかな食の楽しみによるモノであったが……。ここに所縁のある方が、VR小江戸に訪れたならば、どのような情緒が浮かんでくるのだろうか？

(文..sun)



思い出せそうで思い出せない、そんな晴れぬ気持ちを解決しようと、私はVR小江戸をあちこち散策した。風化してしまった記憶を修復するように、グーグルストリートビューを併用しながら、VR小江戸を隅々まで歩き回る。ワールド内

4つの時代を体験できる街、
川越小江戸。グルメと観光で
楽しんでみよう。

歩き回ると 思い出す 川越の街並み



軍艦に似た炭鉱の島

軍艦島

長崎港から船で約40分のところに位置する端島（はしま）は岩礁の周りを埋め立てて造られた炭鉱の島。島の外観が軍艦の土佐に似ていることから「軍艦島」と呼ばれた。

2015年7月世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産～製鉄・製銅、造船、石炭産業～」として正式登録されました。

長崎県 端島

Gunkanjima
Verse 軍艦島バース

写真／みくにき

仮想の軍艦島を 巡る。

長崎港から船に乗っても40分かかる
軍艦島。フォトグラメトリで立体化し
た軍艦島は直接行けるのがメリットだ。
バーチャルの軍艦島で冒険してみよう。

軍艦島にて

長崎県には端島と呼ばれる島がある。その島は、見た目がまるで軍艦だということで、「軍艦島」というあだ名がつけられており、多分その名前の方が有名だろう。この軍艦島は戦前は三菱鉱業が保有していた島であり、石炭が産出されるということで、多くの労働者・技師、そしてその家族が暮らしていた。もっとも、エネルギー革命によって閉山してからは、誰一人住む人間は居らず、今や廃墟として有名な島である。

軍艦島に入ることは基本的にできない。観光用の船が通っているが、決められたルート以外は歩けないようになっているそうだ。もちろん、それは安全面を配慮したことだ。首の皮・いや、コンクリの皮一枚で繋がっている巨大なコンクリートブロックが廃墟となつた団地の5階からぶら下がつていたり、歩いたらゲームのトラップよろしく穴があいて落下して有名な島である。

しかし、VRによって、我々は軍艦島に入ることができるようになったのだ。「フォトグラメトリ」という、実際の写真を使用してVR空間を使う技術によって、それが可能になった。実際のところ、画像は荒っぽかたりするため、現実世界そのまま、というわけにはいかないのだが、それでも十分『現実の』軍艦島を歩いているような気にはさせてくれる。ああ、軍艦島自体が廃墟だから、多少画像が荒くても「それっぽい」と感じてしまうことが要因の一つかも知れない。

そして今、私はVRによって現れた軍艦島の廃墟の中にある。正面にはかつての事務所跡がある。このエリアはホワイトカラーの人達が勤務していた地域らしい。そこから右に歩いて行くと、かの有名な団地が見えてくる。こちらはブルーカラー、実際に炭鉱で掘る作業を行つていた人たちとその家族が住んでいた建物だそうだ。ホワイトカラーとブルーカラーで勤務場所や住む場所が分けられていたことで、おそらく、軍艦島が現役





GunkanjimaVerse
Created by VoxelKei

ACCESS in VRChat

(文・ニッソ編集長)

時間が進めた
現実の廃墟は
仮想で止めただろう

くなるということだけだ。そしてVR世界に持ち込まれた軍艦島には、これ以上歴史が刻まれることはなく、「経年劣化した生まれたての廃墟」のまま、時が止められ、そこに残り続けるのだろう。



時間が止まった 空間の 廃墟で歩く



だった頃は、この僅かな距離の間に、目に見えない職業による絶望的な「壁」が存在していたのだろう。今となつては、目に見える壁すら崩壊しているが。

それにしてもこの空間は、よく考えてみると不思議だ。そもそも、VR世界には廃墟のワールドというのはいくつもある。それらは、「できた時から廃墟として創られている」という、面白い特徴を持つている。過去に存在していたものが劣化していく経過がなく、歴史に積み重ねがない「廃墟」。これが、VR世界に存在する廃墟のワールドだ。しかし、この軍艦島のワールドは、確かにワールドができたのは2022年だが、そこには現実世界で経過した年月が刻み込まれている。「できた時から廃墟であるが、その廃墟は現実世界で長い時間をかけて創られている」のである。こうなつてくると、VR世界における「廃墟」の意味が崩れてくる。そもそも「廃墟」とはなんなのか……？

Gravure1 :

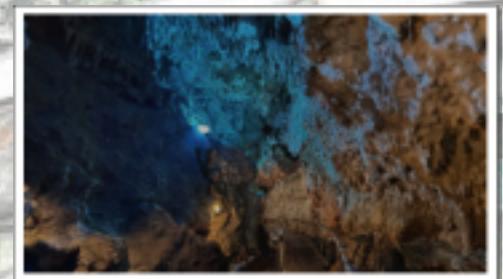
私設図書館シャツツキステ

撮影：みくにき



Gravure2 : CAVE OKINAWA

撮影：みくにき



Kawagoe KoEdo

執筆：sun

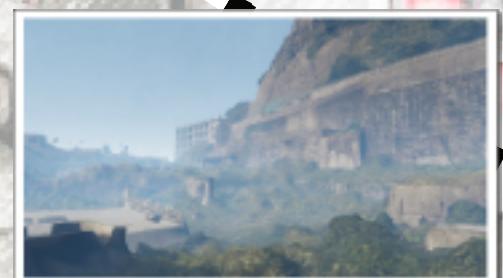
撮影：みくにき



Gunkanjima Verse

執筆：ニッソちゃん

撮影：みくにき



感想などは
#Platform通信欄

へぜひお寄せください！



ニッソちゃん
編集長



特別号なので多少ラフに。軍艦島は色々な意味で一度行ってみたい場所だったんですが、まさかVRで行けるとは思わず、情報が出てからすぐ行きました。今回取り上げることができて良かったです、本当に。



燕谷古雅
編集/デザイン



今回私が表紙から最後まで編集をしました。編集の時Vketの真っ只中、自分の活動も含め、スケジュール的にしんどい目に合わされて作りました。最初はわからないことだらけでかねさんから私の足りない部分をサポートしてくれていて、自分でやり切ってよかったです。



SUN
ライター



私はかつて同人誌即売会の出店者であります。一時期川越に住んでいた者であります。VRでの活動を開始してから、それらの記憶は薄れつつあったのですが、Platformでの活動を通してそれらが活かされる機会に恵まれるとは、人生面白いものですね。



みくにき
カメラマン



創刊号以来の一人カメラマンでした。撮影は一人ですがテーマ「フォトグラメトリ」の提案はTokikazeさん、ワールド候補はオージュさんと、他のカメラマンも裏で参加しています。夏の電気代に怯えながら、2年目もよろしくお願ひします。

STAFF

編集長 | Editor Chief
ニッソちゃん

誌面デザイン | Graphic Design
燕谷古雅

執筆 | Writer
sun
ニッソちゃん

校正 | Proofreading
Nag

撮影 | Photographer
みくにき
わく（裏表紙）

< To the next JOURNEY.

Platform 23' 特別号

発行：Platform編集部 (platformvirtualreal@gmail.com)

一版 (2023/8/6)

2023.8.6

Our
journey

Continues...

Platform

23' 特別号